

2020年、Thai Nguyen医療短期大学に進学しました。昼間は専攻の授業を、夜は日本語の授業を2コマ受けていました。土日午後、日本語授業がありました。そして2023年5月、Hachiro日本語センターのインターンシッププログラムで日本の神奈川県に行きました。

日本に到着時、派遣会社の社長に出迎えてもらいました。最初の三日間は、日本でのマナーと心掛けを勉強しました。最初の研修を終えてから、インターン生は会社の寮からそれぞれ会社を用意した住居に引越して、市役所への登録など必要な手続きを済ませました。移動の手配などはすべて会社がしてくれました。

大学の一年生の時から日本語を勉強した

住居はマンションやアパートではなくて、一軒家でした。住んでいた家のドアは一番外側に鉄のドア、次にガラス、そして虫除けの網戸がありました。一つのドアに2, 3枚も重ねることを、不思議に思いました。

日本の家

インターン先は高齢者施設でした。一緒に日本に行った男性のインターン生が休憩時間に弁当を広げたら、日本人の同僚に「よく食べますね」、「なんの料理ですか」などと気さくに話しかけてもらったと言っていました。時々、日本人の同僚が多めに作って、私たちにお裾分けしてくれました。それで、休憩時間に日本語での交流ができました。

施設のお年寄りもとても親切です。私の兄の家族は大阪にいたので、大阪で働きたいと思い、あるおばあさんに「大阪に行ったことがありますか」と尋ねました。おばあさんは大阪にいたときのことを思い出して、注意点、体験などをいっぱい話してくれました。インターンの期間が終わって別れる時、おばあさんたちは泣きました。私は施設の高齢者に優しい思いをもらったと思います。

高齢者施設での仕事

今回の日本でのインターンシップで、教科書での勉強だけではなく、会話を通しての勉強も大事だと思いました。人それぞれ発音と話し方が違いますので、慣れるにはいろいろな人といっぱい話したり、聞いたりしないといけないからです。私も、日本人と友達になって、若者のことばを知りました。「39」というメッセージをもらい、さっぱりわからなかったので、友達に聞いたら、「39は『さんきゅう』と発音して、サンキュー（Thank you）に似ているので、『ありがとう』の意味だ」と説明してもらいました。

「実際に会話して勉強したことも大事だと思います。」

記事で、Linhさんは「日本語の上達のために日本人と積極的に話しています」と語っています。ただ、誰かと話し合う以前に、どのように話しかけていいかわからないという方もいらっしゃるかもしれません。

「スアン日本へ行く」の第5話で、スアンも先輩のすみれさんと仲良くなりたくて、どうすればいいか迷う場面があります。スアンの話は参考になるかもしれないので、是非番組をご覧ください。

<https://www.hikidasu.jpf.go.jp/jp/corner/drama/05/>

あなたへのヒント



* 「スアン日本へ行く！」は国際交流基金が作成した日本語学習番組「ひきだすにほんご」の一つのコーナーです。